



# パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.116 2021年3月30日発行  
全国牛乳パックの  
再利用を考える連絡会

TEL. 0554-22-3611

## 松戸市にてオンライン配信講習会を実施

依然としてコロナ収束の見通しが立たない中、2/12（金）松戸市消費生活課の依頼により、松戸市勤労会館にてZOOMを利用したオンラインによる牛乳パックリサイクル講習会を実施いたしました。

通常、消費者講座に参加する年齢層を考えると、リモートが定着していないためか、参加人数はわずかでしたが、コロナ禍での活動方法の一つを経験できたことは、私たちにとっては収穫でした。

松戸市のご担当者からは、コロナが終息したらぜひまた対面式で講習会をお願いしたいと、講習会内容に高い評価をいただきました。

今回の講習会は、松戸市消費生活課で実施している「冬の消費者教室」の講座として依頼を受けたものです。コロナ禍のため、出前授業や講習会の中止の連絡が申し込み先から次々と入る中、松戸市では初めての試みとしてリモート講座を企画されていて、こちらとしてもその手ごたえを計るべく、無条件でお引き受けいたしました。

当日は、容環協の専門委員さん1名とパック連3名の体制で、勤労会館の小さな会議室に看板や、壁掛け、のぼりをディスプレイして、画面が殺風景とならないよう配慮しました。

リモート体制に必要な機材は松戸市側でご準備いただきましたが、基本的な紙パックリサイクルの話を、パワーポイントで説明する際に、情報漏洩等防止のためパソコンをZOOMの共有機能につなげることができずパソコン画面をもう一台のパソコンカメラに映しながら解説をする、というアナログな方法で対応しました。

紙漉き工程では、普段人数が多いため、時間の都合で漉きの体験のみとしていますが、今回はパルプづくりからじっくり紹介することができ、さらに手元をアップにできるので、通常の対面式よりわかりやすいのではないかと思います。

時間に余裕があったので、牛乳パックの手すき紙がフォーカスされたテレビ朝日のドラマ「遺留捜査 2021 第3話」で紹介されていた、豆腐のパックを使った紙漉きにもチャレンジしてみました。

豆腐の空きパック2つを用意し、1つに千枚通しで無数に穴をあけ、パルプを流し込み、もう1つのパックで上から抑えるという方法でした。実際のところ、千枚通しで開けた穴では水切りが悪く、思い切って底を切り取り、ポリネットを敷けば、豆腐のパックでも代用できることがわかりました。

2時間にわたる講習会の様子を見ていた松戸市のご担当者は、「これは対面式でまたぜひやりたいですね。皆さん関心を持つと思います。」と、興味を示されていました。

そんな日が早く来ることを、私たちも願っております。



## 紙パック回収率が 2019 年度実績でまた減少

容環協が毎年実施している、紙パックリサイクル動向調査による 2019 年度実績（最新）の回収率が公表されました。「2020 年概要版紙パックリサイクルの現状と動向に関する調査」で、以下のように説明しています。

2019 年度の飲料用紙パック原紙使用量は、216.600 トン。

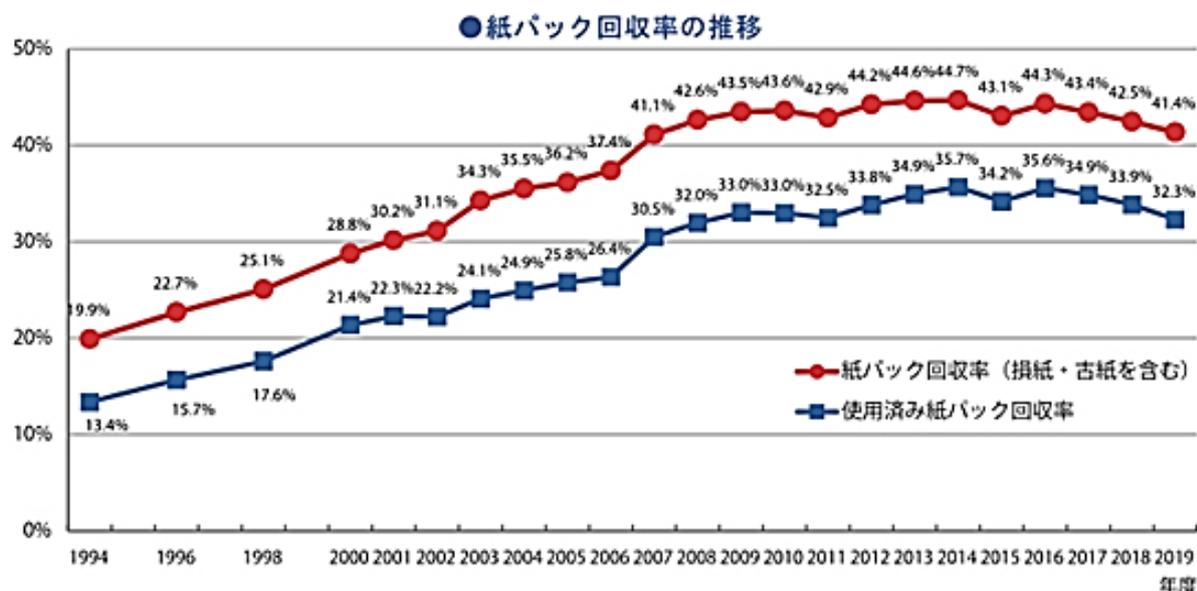
また、飲料メーカーを通して 国内に出荷された飲料用紙パックは 187.000 トン。

このうち主に一般家庭に向けた家庭系が 165.300 トン、学校給食や飲食店等向けの事業系が 21.700 トン。

国内紙パック回収量は 89.6 千トンで、紙パックメーカーからの損紙が前年度から 5.200 トン減少。

このうち使用済み紙パック回収量は、店頭回収が微増したものの、集団回収等及び学校給食用牛乳の回収量の減少によって、前年度より 5.000 トン減少して 60.400 トンになりました。

2019 年度の回収率は、これらの回収量減少により、「紙パック回収率（損紙・古紙を含む）」は前年度より 1.1 ポイント下がり **41.4%**に、「使用済み紙パック回収率」は前年度より 1.6 ポイント下がり **32.3%**になりました。



上述の回収主体の回収量の詳細ですが、店頭回収が 28,000 トンで前年より 200 トンの増。自治体回収は、10,800 トンで、前年より 500 トン減。集団回収においては 12,200 トンで、前年より 3,500 トン減。

学校給食は 7,600 トンで前年より 1,000 トン減。飲食店等が、1,900 トンで前年より 100 トン減と、店頭回収以外の回収量が軒並み減少となっています。

容環協の主目的が、紙パックリサイクルの回収率向上と、その環境特性を伝えること、環境を考え行動する人々を増やすことでありながら、さらに 2005 年に回収率 50%を掲げて以来、5 年ごとにプランを作成しながら昨今はパック連が企画提案し実施してきた連携事業以外に、具体的な対応策を何ら講じてこなかった結果といえます。

学乳パックリサイクルについても、今回の調査結果の 1,000 トン減少の背景には、近年各地で瓶牛乳が紙パックに切り替わり、廃掃法に抵触するからと乳業メーカーが学乳パックの引き取りを停止したため、ほとんどの地域で学乳パックが焼却されていることがあげられます。

パック連も含めて、牛乳パックリサイクルにかかわる市民グループから、なぜ引き取り停止を通達する際に自治体や、教育委員会、あるいは学校現場にリサイクルの提案をすることをしなかったのか、という疑問と不満の声が上がっています。

## 第15回紙パック回収システム強化研究会を開催

今年度予定していた紙パック回収システム研究会ですが、コロナの影響により開催のタイミングが伸びに伸び、3月19日（金）にオンライン形態でやっと開催にこぎつけました。

前ページでも触れたように、各地で学乳パックリサイクルに伴う問題が山積していることから、今回は学乳パックに焦点を当て、パック連のネットワーク先である4団体にご報告いただきました。

ご報告いただいたのは、NPO法人碧いびわ湖の村上悟代表理事、尼崎パッカルネットの永岡亮代表、NPO法人環境り・ふれんず石塚祐江代表理事（コアレックス道楽顧問）、(株)田中商店田中利和専務（パック連熊本）4名の方々です。

そもそも学乳パックリサイクルの始まりは、牛乳パック再利用運動に参加していたPTAの方々、環境教育の観点から毎日給食に出る牛乳パックもリサイクルできないかと、声を上げたことがきっかけでした。当時、学乳パックは1ℓパックや500mlに比べ歩留まりが悪いことから、受入れ製紙メーカーからは敬遠されていました。製紙メーカーと協議を重ね、子どもたちが洗って開いて乾かす手間をかけているのだから、何とか使っていこうと、学乳パックを受けてくださることになりました。

ところが、昨今アレルギーのお子さん対応による学乳パックリサイクルの停止や、少子化が要因となり回収量が減少。その上、前述のように2019年に各地で、乳業メーカーの学乳パック引き取りが停止され、多くの自治体が混乱をかかえたまま、廃棄焼却を選択せざるを得なかったことで、1,000トンの減少という結果となりました。さらに、コロナ感染防止対策で、リサイクルを停止した学校も増加していることから、学乳パックの回収量の減少に拍車がかかることは言うまでもありません。

紙パック研に参加された、受入れメーカーからは、学乳パックリサイクルは環境教育の最たるものであると、従来通り資源として受け入れているが、HACCPに関わることで、学乳パックを一般廃棄物扱いしている所があるのはいかがなものか、回収中止となった東京都の3つの区から受け入れるようになったが、洗って開いて乾かしてあるもの以外受け入れていない、など状況をお話いただきました。古紙全体では、雑誌雑がみの使い道がなく、特に雑がみをどうやって使っていくかが大きな問題となっているとのことでした。

牛乳パック再利用運動の発足当初からかかわってこられた山田洋治商店の山本専務は、東京では私たちが扱っている学乳パックの6～7割は、子どもたちが洗って開いて乾かして出してくれている。コロナ禍において、少しずつでも進めようと教育委員会も先生も生徒達も頑張っている。その気持ちを大事に思うことを乳業メーカーの皆さんに再認識して欲しいと述べられていたのが印象的でした。

尚、今年度をもって容環協との連携解消により、当研究会は最後の開催となりました。



### いくつか疑問に思った事

1. 乳業メーカーによる回収が廃止されたときに、学校等への引継ぎは無かったのでしょうか？
2. 乳業メーカー主導で牛乳配送車両以外での回収などはされないのでしょうか？
3. 製紙メーカーは200mlパックの受け入れに消極的なのでしょうか？



### 札幌市内の学乳パックリサイクルの現状と課題

- 実施校（10年間で121校→47校）60%減
- 回収量（9年間で88ト→8.4ト）90%減
- 少子化（児童数の減少）→回収量減
- アレルギー→取組中止またはサーマル
- 教師の負担増→取組中止またはサーマル
- 新型コロナウイルス→回収中止

# 今年度もパックマークはいろいろな冊子に掲載されました



牛乳パック再利用マークは、1992年北九州市で開催された「第6回牛乳パックの再利用を考える全国大会」の中で生み出された、集めて使う運動を実践していくための市民発のシンボルマークです。

当時、牛乳パック再利用運動が盛んだ一方、牛乳パックの再生品が売れない状況がありました。市民と受け入れ製紙メーカーで「牛乳パック再利用製品利用拡大作業委員会」を発足させ、消費者へのアンケート調査を行ったところ、牛乳パックの回収に協力はしているものの、再生品を積極的に購入する消費行動にまで至っていないことがわかりました。そこで「みなさんから回収した牛乳パックを使った製品」であることが一目でわかるように目印「牛乳パック再利用マーク」をつけ、再生品の利用拡大キャンペーンを展開しました。

5年間にわたり全国各地のスーパー店頭、公設市場、環境展など450か所でパックマーク普及キャンペーンを行い、この実績が第1回グリーン購入大賞優秀賞の受賞にもつながりました。

現在では認知度も上がり、歴史ある身近なマークとしてすっかり定着し、自治体の環境副読本、小学生向けの問題集や教材本、消費者向けハンドブックなど様々な冊子で紹介されています。

今年度は、新たにSDGsの実践の一つにも位置付けられるようになりました。

**ご報告** 2002年より、容環協からの依頼を受け18年間にわたり「連携」という形で牛乳パックリサイクル促進地域会議、回収ボックス配布事業、牛乳パックリサイクル出前授業・講習会、リサイクル促進キャンペーン、紙パック回収システム強化研究会、受け入れ製紙メーカーとの意見交換会、各種啓発冊子の発行など様々な啓発活動を提案し、協働、時には先導もしながら活動を展開してまいりましたが、2020年度をもって連携を解消することといたしました。連携は信頼関係の上で成り立つものであり、35年の実績を積み重ね、かつ誠実に対応している当会对し、容環協組織内部の都合や、パックマークへのいわれのない意見などを一方的に押し付けたことに対し、抗議を込めての解消であることをご報告申し上げます。

◎牛乳パックリサイクル・牛乳パック再利用マークについてのお問い合わせは  
**全国牛乳パックの再利用を考える連絡会** / **牛乳パック再利用マーク普及促進協議会**  
 TEL.0554-22-3611 FAX.0554-56-9216 E-mail [info@packren.org](mailto:info@packren.org)  
<http://www.packren.org> 〒401-0012 山梨県大月市御太刀 1-2-10